

好き嫌いなく食べるのが長寿の秘訣

日下みいさんに祝詞と松竹梅敬老祝金を贈呈

10月9日、満100歳を迎えた日下みいさんを風間市長が訪ね、松竹梅敬老祝金と祝詞を贈り長寿を祝福しました。みいさんは福岡深谷のご出身で、結婚後は農業をしながら9人の子供を育て、現在は孫が14人、ひ孫が10人います。好きな食べ物は赤飯やおはぎなどの餅米を使った料理で、長寿の秘訣を「穏やかに過ごすことや好き嫌いなくしっかり食事をする」と話すみいさん。現在は八宮荘に入居中で、この日はご家族のほか、入所者や施設職員も集まり、みんなでみいさんの長寿をお祝いしました。



▲ご家族などと一緒に記念撮影をするみいさん

弥治郎こけし村をPR

弥治郎こけし村ふれあい祭り

9月30日、「弥治郎こけし村ふれあい祭り」(弥治郎こけし組合主催)が白石衛生センター第2事業所で開催されました。例年は、こけし村のPRなどを目的に弥治郎こけし村で開催しているこのまつり。今年は台風が接近し、雨の予報のため急きょ会場を衛生センターに移しての開催となりました。この日は、約850人が会場を訪れ、地元主婦などで作る「弥治郎ダンサーズ」などのステージ発表を楽しんだり、鎌先温泉のペア宿泊券が当たるお楽しみ抽選会に参加したりするなど、こけし工人や地元の人たちと交流を深めていました。



▲そろいのウエアで息の合った踊りを披露した「弥治郎ダンサーズ」

白石温麺で白石の復興を支援

はたけなか製麺(株)から寄付

9月28日、はたけなか製麺株式会社の佐藤秀則社長が市役所を訪れ、約21万円を「白石城復興寄付金」として風間市長に手渡しました。同社では、昨年9月から本年8月までの1年間、贈答用温麺「片倉小十郎の白石城」1箱の売り上げにつき5円を白石城復興のために寄付すると発表。1年間で約43,000箱が販売されました。佐藤社長は「白石の復興のために活用してほしい」と話し、風間市長は「大変ありがたい。白石への誘客をしっかりと考え、元気な白石を取り戻したい」と復興を誓いました。



▲寄付金を風間市長(右)に手渡す佐藤社長

水泳を通して交流・絆を深める

姉妹都市親善水泳大会2012

9月16日、「姉妹都市親善水泳大会2012」をスパッシュランドしろいしで開催しました。東日本大震災のため2年ぶりの開催となった大会には、本市と姉妹都市の登別市と海老名市、本市と交流が深い南三陸町の4市町から47人の小学生が参加し熱戦が繰り広げられました。本市の選手は、真柄昂世くん(福岡小6年)が50mバタフライで大会新、茂木菖さん(白石第二小5年)が50m背泳ぎで優勝。試合後は歓迎会も行い、参加した選手たちは、水泳という競技を通して4市町の交流と絆を深めることができました。



▲大会に参加した白石市の選手たち

集められたごみは約21トン！

市内一斉クリーン作戦



▲枯れ葉などを拾い集める参加者

9月30日、春秋恒例の行事「市内一斉クリーン作戦」が行われました。平成14年から白石市公衆衛生組合と市が共催で行っているこの行事。毎年、春と秋の2回、各自治会を中心に参加を呼び掛け、市民の皆さんが早朝から集まり、ボランティアで周辺の道路沿いなどに落ちている空き缶や枯れ葉などを拾い集めました。この日は、7,747人が参加し、燃やせるごみ9.66ト、資源ごみ5.18ト、不燃・粗大ごみ6.46トの総計21.3トが拾い集められました。「ボイ捨てはしない」を合言葉に、これからもきれいなまちづくりを進めましょう。

家族の思いやりが長寿の秘訣

佐藤みづをさんに祝詞と松竹梅敬老祝金を贈呈



▲ご家族と一緒に記念撮影をするみづをさん

10月19日、満100歳を迎えた佐藤みづをさんを風間市長が訪ね、松竹梅敬老祝金と祝詞を贈り長寿を祝福しました。みづをさんは越河のご出身で、結婚後は農業をしながら4人の子供を育て、現在は孫が6人、ひ孫が5人います。趣味は縫い物で、チューリップやふくろうを作り、子どもたちや保育園などにプレゼントしています。好き嫌いなく、何でもありがたいいただくのがモットーで、長寿の秘訣は、家族の思いやりと心づくしがあつたからというみづをさん。この日はご家族が集まり、みんなでみづをさんの長寿をお祝いしました。

きれいな沢端川を保つために

秋季川干し清掃活動



▲早朝から清掃活動を行う参加者の皆さん

9月29日、春秋恒例の行事「川干し清掃奉仕活動」が沢端川周辺で行われました。春と秋の川干しに合わせて、平成16年から白石市観光協会と白石商工会議所が共催で行っているこの行事。毎年、市内の企業や団体、個人などが早朝から集まり、ボランティアで沢端川の清掃活動を行っています。

今年是小雨にもかかわらず約300人が参加。参加者は「少しでもきれいな沢端川を保ちたい」と、水が干いた沢端川から空き缶やペットボトルなどのごみを拾ったり、周辺の雑草を刈り取ったりしていました。

人材育成に向けて大学と連携

宮城大学・兵庫県立大学と連携協力



▲相互の協力を誓う宮城大学の西垣克学長(左)と風間市長

東日本大震災の被災地にある宮城大学と、阪神大震災からの復興を経験した兵庫県立大学が、地域再生を担う課題発見解決型の人材「コミュニティ・プランナー」を育成する共同教育事業を実施することになり、9月21日、事業を進める場所となる本市と三者協定を締結しました。事業ではグリーンケア、グリーンデザイン、グリーンビジネスの3分野を設け、本市では両大学の学生が総合計画にある「花と緑の回廊づくり」の活動を支援するほか、学生と市民の学びの場として「白石コミュニティスクール(仮称)」の設置などが計画されています。